門徒推進員中央教修について

1. 目　　的　自他共に心豊かに生きることのできる「御同朋の社会」の実現をめざして、「念仏者の生き方」をもととして、門徒・僧侶ともに宗門の「御同朋の社会をめざす運動」（実践運動）にとりくむ強力な推進者を養成する。

2. 期　　間　4日間（3泊4日）　※詳細は４頁をご参照ください。
1年間に6～7回の開催です。ご都合の良い回にご参加ください。

3. 会　　場　聞法会館（教修・宿泊とも）

4. 対 象 者　所定の「連研」を修了した門徒

5. 募集人員　50名（1開催につき）　※受講申込書には必ず第２希望もご記入ください。

6. 申込方法　所定の「①門徒推進員中央教修受講申込書」･「②門徒推進員名簿登録申請書」･「③門徒推進員中央教修事前アンケート」･「④健康状態チェックシート」に必要事項を記入し、所属寺院住職の同意、組長の奥印（他組において修了の場合は、修了組組長の奥印も含む）、教務所長の進達を経て、門信徒教化部宛申し込む。

7. 申込締切　各開催の1ヵ月前（定員に達した場合、締切日以前に受付を締め切ります）

8. 経　　費　（1）教修費　受講者負担　2万5千円
（2）交通費　受講者負担　※往復3万円を超える場合、超過分のみ支給。
（3）帰敬式　帰敬式未受式者のみ、冥加金1万円。
（2日目の晨朝後に受式）
※法名内願の場合、受式日の2ヵ月前までに所属寺院住職からの申請が必要。内願懇志として別に1万円必要。
詳細は本願寺参拝教化部（帰敬式係）まで。

9. 使用教材　『浄土真宗聖典（註釈版）』
『浄土真宗聖典－勤行集－』
『仏教讃歌－歌集－』
『宗祖讃仰作法－参拝用－』
『伝灯奉告法要ご親教「念仏者の生き方」に学ぶ』等

※詳細については、開催要項をご確認ください。

2018（平成30）年度 開催要項より抜粋

お問合せ先
浄土真宗本願寺派（西本願寺）
門信徒教化部
〒600-8501 京都市下京区堀川通花屋町下ル
浄土真宗本願寺派 伝道本部
TEL (075) 371-5181　FAX (075) 351-1372

門徒推進員 中央教修のすすめ

御同朋（おんどうぼう）の社会をめざして

中央教修の様子

1日目

聞法会館（もんぽうかいかん）

中央教修は本願寺の聞法会館で開催します。

開会式

みんなでお勤めをします。

「御同朋（おんどうぼう）の社会をめざす運動」（実践運動）「念仏者の生き方」①

法座（ほうざ）

「問題提起」
「班別話し合い」
「各班発表」
「まとめ」

2日目

思い思いに語ろう

テーマを設けず自由に班別に語り合います。

示談（じだん）

一人ひとりが様ざまな思いや質問・悩み等をスタッフと対話する時間です。

3日目

仏教讃歌（ぶっきょうさんか）

み教えを、やさしいメロディにのせて歌いましょう。

決意表明式

阿弥陀さまの前で、門徒推進員としての決意を述べます。

4日目

お斎（とき）

お晨朝のあと、書院で伝統のお斎をいただきます。

晨朝参拝（じんじょうさんぱい）

阿弥陀堂・御影堂での朝のお勤めにお参りします。

全体会「念仏者の生き方」②

全員が輪になって、教修で感じた思いやこれからの活動について聞き合います。

懇親会

教修が終った安堵感と名残惜しさが交錯します。

門徒推進員中央教修へ

1978(昭和53)年から全国の寺院・組・教区で展開されている門徒推進員養成連続研修会(連研)を修了された多くの方が、門徒推進員中央教修(中央教修)を受講されています。中央教修では、「連研」を修了された方がたが全国から本願寺に集い、話し合い法座を重ね、ともに悩みを聞き合い、問いを語り合うことを通して、これまで単なる習慣や儀礼、遠い世界のことと捉えていた浄土真宗のみ教えが日常生活に深く関わり、苦悩のなかを生きる私のよりどころとなってくださる尊い教えであるという気づきができることと思います。また、多くのスタッフや参加者との交流を通してお寺や僧侶、本山を身近に感じていただくことができます。

中央教修を受講していただきますと門徒推進員となります。門徒推進員とは、法名(釋○○)をいただいて、僧侶とともに宗門がすすめる「御同朋の社会をめざす運動」(実践運動)を推進していく門徒です。それは、できる範囲で身近な方がたに阿弥陀如来の智慧と慈悲を伝えることであり、あらゆる人びとが心豊かに生きることのできる社会の実現に少しでも貢献しようとする営みでもあります。

中央教修で、ご一緒にお念仏のみ教えを聞かせていただきましょう。

あなたのご参加をお待ちしております。

教修を終えて

大分教区　松井 ヨシヱ
同期の方とは年賀状をやり取りしています。本山で会うと涙が出る程嬉しくなります。
住職さん・坊守さんとも話ができるようになり、ご縁が広がりました。

兵庫教区　浅田 邦雄
中央教修の良さは、来てみないと絶対わからないと思う。
みんなが、中央教修に来て率直に話をすることがすべてだと思う。

大分教区　田川 安一
組連研も中央教修も、すべて阿弥陀さまのご縁だと思います。
全国の方と年賀状や情報のやり取りをしています。
研修会に参加しても、すべて阿弥陀さまのご縁で集まった方なので、話も合うし、楽しく過ごすことができます。

新潟教区　金田 ひとみ
自分にできることがあれば、積極的に参加していきたいと思います。

新潟教区　梅澤 京子
この中央教修で、全然知らなかった方とであえた素晴らしさがありました。
帰ってからも、皆さんとのであいを、いっぱい作りたいと思います。

鹿児島教区　上村 久美子
お寺のおあさじが7時からあるので、まずは、しっかりお聴聞していきます。

門徒推進員中央教修 基本日程

1日目	2日目	3日目	4日目
	6:00 起床	6:00 起床	6:00 起床
	晨朝参拝(おあさじ)	晨朝参拝(おあさじ)	晨朝参拝(おあさじ)
	朝食・休憩	朝食・休憩	お斎
			荷物整理・休憩
	9:00 〈法座2〉「み教えからの気づき〈神〉」	9:00 〈法座4〉「救いと歩み〈浄土〉」	9:00 まとめの法座
			10:00頃 全体会「念仏者の生き方」②
11:30 受付			11:20 閉会式 事務連絡
12:30 開会式 記念撮影	12:00 昼食 休憩	12:00 昼食 休憩	12:00 懇親会
13:00 オリエンテーション 班別話し合い	13:00 〈法座3〉「御同朋の社会とは〈差別〉」	13:00 門徒推進員とは(私とお寺)	13:00頃 随時解散
14:15 休憩		13:40 前半示談の方: 示談 / 後半示談の方: 仏教讃歌・決意表明式練習	
14:30 〈法座1〉「であい」		14:30	
		15:20 休憩	
		15:35 仏教讃歌・決意表明式練習 / 示談	
17:30 休憩	16:00 休憩	16:25	
17:45 「御同朋の社会をめざす運動」(実践運動)「念仏者の生き方」①	16:10 音楽法要 宗祖讃仰作法	17:15 休憩	
	17:10 休憩	17:20 決意表明式について	
18:45 夕食 休憩	17:20 思い思いに語ろう(法名授与)	18:00 夕食 休憩	
19:30 お夕事(おつとめ)	18:15 夕食 休憩	19:00 決意表明式	
入浴 就寝	19:00 お夕事(おつとめ)	20:30頃 茶話会	
	入浴 就寝	21:00頃 入浴 就寝	

2018(平成30)年度　基本日程

第25代専如門主 伝灯奉告法要 ご親教

『念仏者の生き方』

仏教は今から約2500年前、釈尊がさとりを開いて仏陀となられたことに始まります。わが国では、仏教はもともと仏法と呼ばれていました。ここでいう法とは、この世界と私たち人間のありのままの真実ということであり、これは時間と場所を超えた普遍的な真実です。そして、この真実を見抜き、目覚めた人を仏陀といい、私たちに苦悩を超えて生きていく道を教えてくれるのが仏教です。

仏教では、この世界と私たちのありのままの姿を「諸行無常」と「縁起」という言葉で表します。「諸行無常」とは、この世界のすべての物事は一瞬もとどまることなく移り変わっているということであり、「縁起」とは、その一瞬ごとにすべての物事は、原因や条件が互いに関わりあって存在しているという真実です。したがって、そのような世界のあり方の中には、固定した変化しない私というものは存在しません。

しかし、私たちはこのありのままの真実に気づかず、自分というものを固定した実体と考え、欲望の赴くままに自分にとって損か得か、好きか嫌いかなど、常に自己中心の心で物事を捉えています。その結果、自分の思い通りにならないことで悩み苦しんだり、争いを起こしたりして、苦悩の人生から一歩たりとも自由になれないのです。このように真実に背いた自己中心性を仏教では無明煩悩といい、この煩悩が私たちを迷いの世界に繋ぎ止める原因となるのです。なかでも代表的な煩悩は、むさぼり・いかり・おろかさの三つで、これを三毒の煩悩といいます。

親鸞聖人も煩悩を克服し、さとりを得るために比叡山で20年にわたりご修行に励まれました。しかし、どれほど修行に励もうとも、自らの力では断ち切れない煩悩の深さを自覚され、ついに比叡山を下り、法然聖人のお導きによって阿弥陀如来の救いのはたらきに出遇われました。阿弥陀如来とは、悩み苦しむすべてのものをそのまま救い、さとりの世界へ導こうと願われ、その願い通りにはたらき続けてくださっている仏さまです。この願いを、本願といいます。我執、我欲の世界に迷い込み、そこから抜け出せない私を、そのままの姿で救うとはたらき続けていてくださる阿弥陀如来のご本願ほど、有り難いお慈悲はありません。しかし、今ここでの救いの中にありながらも、そのお慈悲ひとすじにお任せできない、よろこべない私の愚かさ、煩悩の深さに悲嘆せざるをえません。

私たちは阿弥陀如来のご本願を聞かせていただくことで、自分本位にしか生きられない無明の存在であることに気づかされ、できる限り身を慎み、言葉を慎んで、少しずつでも煩悩を克服する生き方へとつくり変えられていくのです。それは例えば、自分自身のあり方としては、欲を少なくして足ることを知る「少欲知足」であり、他者に対しては、穏やかな顔と優しい言葉で接する「和顔愛語」という生き方です。たとえ、それらが仏さまの真似事といわれようとも、ありのままの真実に教え導かれて、そのように志して生きる人間に育てられるのです。このことを親鸞聖人は門弟に宛てたお手紙で、「（あなた方は）今、すべての人びとを救おうという阿弥陀如来のご本願のお心をお聞きし、愚かなる無明の酔いも次第にさめ、むさぼり・いかり・おろかさという三つの毒も少しずつ好まぬようになり、阿弥陀仏の薬をつねに好む身となっておられるのです」とお示しになられています。たいへん重いご教示です。

今日、世界にはテロや武力紛争、経済格差、地球温暖化、核物質の拡散、差別を含む人権の抑圧など、世界規模での人類の生存に関わる困難な問題が山積していますが、これらの原因の根本は、ありのままの真実に背いて生きる私たちの無明煩悩にあります。もちろん、私たちはこの命を終える瞬間まで、我欲に執われた煩悩具足の愚かな存在であり、仏さまのような執われのない完全に清らかな行いはできません。しかし、それでも仏法を依りどころとして生きていくことで、私たちは他者の喜びを自らの喜びとし、他者の苦しみを自らの苦しみとするなど、少しでも仏さまのお心にかなう生き方を目指し、精一杯努力させていただく人間になるのです。

国の内外、あらゆる人びとに阿弥陀如来の智慧と慈悲を正しく、わかりやすく伝え、そのお心にかなうよう私たち一人ひとりが行動することにより、自他ともに心豊かに生きていくことのできる社会の実現に努めたいと思います。世界の幸せのため、実践運動の推進を通し、ともに確かな歩みを進めてまいりましょう。

2016（平成28）年10月1日

浄土真宗本願寺派門主
大　谷　光　淳

ご親教「念仏者の生き方」は2016(平成28)年10月1日、伝灯奉告法要初日に第25代専如ご門主が私たち一人ひとりにお示しくださったご法話です。仏教・浄土真宗のみ教えを平易な言葉でお説きくださるとともに、親鸞聖人のみ教えをよろこび、依りどころとする念仏者の生き方についてお示しくださいました。

今まで、私たち念仏者が様ざまな社会の課題に関わる時、ともすれば凡夫にあぐらをかいて何もせずにすませようという体質に陥りがちでしたが、ご親教では、少しでも仏さまのお心にかなう生き方を目指すことが念仏者の生き方だと明確にお示しくださいました。私たち一人ひとりの力は微力ではありますが、自他ともに心豊かに生きていくことのできる社会の実現のため「御同朋の社会をめざす運動」(実践運動)を推進し、ご親教「念仏者の生き方」を受け止め、各組連続研修会・中央教修での学びを深め、ともに歩みを進めてまいりましょう。